

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4077300244		
法人名	有限会社 ひがし		
事業所名	グループホームたかみ		
所在地	うきは市浮羽町高見1750-1		
自己評価作成日	平成24年10月 2日	評価結果確定日	平成24年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス
所在地	福岡市博多区元町1-6-16
訪問調査日	平成24年10月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内の菜園でとれた野菜を利用した食事 四季折々の花見ドライブ等の外出を気軽に楽しんでもらえるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

北に筑後川、南に耳納連山を望み、肥沃な水田地帯の中間に、グループホームたかみは立地されている。リビングに設置された南向きの開放的な窓からは、観光地の眺望のような山並みと自然の風景が臨め、うきはの情緒溢れる民家の建ち並ぶ町並みと共に、懐かしさを感じさせる風景に囲まれ入居者がゆったりとした時間を過ごしている。入居者と地域、そしてスタッフが「一緒に集い」「一緒に生活し」「一緒に行動し信頼し」「一緒に生き甲斐を見つけ自立していく」家のような存在であることが事業所の理念であり、全員が一体となってホームの生活を笑顔で楽しんでいる。 スタッフ、入居者も明るく過ごしており、近隣の住民とも気軽に挨拶を交わし良好な関係を築いている。これからも地域の中で地域密着型施設としての存在感を高めていき、高齢者を含めた地域の憩いの場となるような場所であることが大いに期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目に見える場所に、理念を貼り、実践につなげている。	開設時にスタッフ全員で作った理念を、常に見えているところに掲示しており、意識してケアにあたっている。毎月の会議時に全員で理念の内容を確認し周知するようにしている。利用者とスタッフが「一緒に」ということを意識し、たかみが居心地の良いホームとなるように理念の実践に努めている。	全員で作上げた理念は、スタッフの納得いく物であり、非常によく練り上げられた物だが、具体的な行動に落とし込むための行動指針の作成や、パート職員も含めた全員への周知のために申し送りや朝礼時の共有を行う事を今後は期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	4月に春祭りを行い交流をしている。いつでも地域の方々と交流ができるようにしていきたい。	春祭りには近隣の子供や住民が参加し、バザーなどは非常に盛況だった。入居者と一緒に畑の草取りを手伝ってくれたり、野菜や花の差し入れがあったり、散歩の際に気軽に声をかけてくれたりと近隣住民とも密接なつきあいがなされている。地元の中学校の実習の受け入れもしており、餅つきの際には地域ボランティアの参加もあった。	個別の住民とのつながりは強くもたれているが、事業所と地域全体とのつながりに弱いところがあるため、今後は民生委員の協力などをとりつけ、町内会、老人会の加入、地域清掃の参加など積極的な地域活動への参加を進めることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアとたかみ祭りをを行うことで少しずつ理解を広げているところである。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では実践での悩みなどもきいてもらい、今後の向上発展に努めている。	市の担当職員、駐在所、区長などが積極的に参加しており、離設予防、防災、水害対策などについて専門の有識者からアドバイスを頂いている。活発に意見の交換がなされ、困難ケースの相談なども行っている。議事録は玄関に掲示し、誰でも閲覧できるようになっている。	参加者から活発に意見が交わされる会議の運用がなされているが、今後は地域との関係構築のための助力をとりつけること、入居者の参加の呼びかけと意見を出しやすい環境をつくり、積極的な事業所運営に役立てることが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	写経や地域包括の方などわからないこと、悩みなどその都度連絡を取っている。	市の職員は餅つき大会の手伝いにも来てくれており、普段から相談のしやすい密接な協力関係が築かれている。社会福祉協議会と衣装レンタルの相談や、包括支援センターとの情報交換など、各機関とのまめな報告と接点をもつことで良好な関係になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠はしておらず、スタッフの見守りにより入居者が自由に行動できるよう対応している。外部研修にはスタッフが入れ替わりで参加しており、マニュアルによる学習や、ケア会議時にも指導を行っている。以前はベッド柵による囲いをしてしたが、改善し現在は行っていない。	日頃のケアに対する指導は注意深く行っているが、パート職員も含めた全体的な学習や理解を深めていくために全体研修・勉強会による周知徹底を行う事が今後期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がないように注意し、防止に努めている。		

04自己・外部評価表(GHたかみ梨)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の状況に合わせた支援ができるように、研修勉強会などへ参加を心がけている。	全職員を対象とした外部研修と報告会を定期的に行い周知を図っている。管理者と相談員を中心に制度の理解がされており、必要時には家族に説明するための資料なども準備されている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	定期的に家族との会合をし、その都度変更があれば、説明をし理解を得る。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置など 意見・要望を広く聞き取れるようにしている。	面会で来られた際などに要望を聞き取り、対応に関しては毎月のお便りなどで報告を行うようにしている。面会に来られない際は電話などでもコミュニケーションをとっており、月に1回は必ず何らかのやりとりがされるように気を配っている。	直接要望を聞き取るようにしているが、更に積極的な意見が出てくるように、意見箱の積極的な活用、家族だけの集まりや、家族会の働きかけなどの仕組みを作っていくことに今後は期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会や個々に管理者などへ意見できる環境である。	施設長と全職員が参加する会議で意見を反映させる機会を作っている。明るく活発な雰囲気の中で会議中も意見が積極的に交わされており、事業所全体に「まずやってみよう」という前向きな文化が創られている。パート職員からも活発な発言がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的、または個人的に話し職員の向上にむけ、話ができる環境である。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては公平性を持ち性別や年齢などで、採用対象から排除しないようにしている。	男女の性別や年代も様々だが、それぞれが工作や習字など得意な分野に個々の能力を活かしている。教育・研修の機会も希望に応じてとられるようにしており、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的に話し合い、指導を受け、入居者に対する尊重が守られている。研修などにも参加	外部研修・伝達研修による学習と、毎月の定例会議によって周知と情報の共有を行っている。入居者への呼びかけが馴れ馴れしくならないように、管理者が日々のケアや発言に対して注意、指導を行っている。なるべく全員のスタッフが研修に参加出来るように交代で研修の受講機会を確保している。	

04自己・外部評価表(GHたかみ梨)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会が開催されているが、都合により参加できない場合もある。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会があり、親睦や研修に参加するように努めているが、欠席する場合もある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望をよく聞き、ケアプランに挙げ毎日実現出来る様に取り組んでいる。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎月近況だよりと手紙を出し、家族が安心されるよう報告している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の希望をよく聞きケアプランの目標に上げ実行している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の体調を見極め、盛り付け、配膳、皮むき等の助け合って生活している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	確執のある親子関係等、両方等、両方の話をよく聞き、仲良く信頼し合えるように努めている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が生活してきた家や畑に行き、共に花をつんだり果実をとったりして、安心していただく。	知人に依頼して訪問してもらったり、入居前の住居の畑に、許可を得て収穫に行ったり、馴染みの人や場所との関係を続けている。外出時にも懐かしい場所を訪れたり、行きつけの美容室に行ったり、知人と一緒に温泉に行かれる方もいる。交流関係は入居時に聞き取り、本人の代わりに電話をしたり、家族への報告もまめに行うようにしている。	

04自己・外部評価表(GHたかみ梨)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席を考えたり、口論になった時のフォロー声掛けに努めている。		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に取り組みはしていない。どうしたら疎遠にならないか考えていこうと思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に声かけし、思いや意向などの把握に努めている。困難な場合は家族より情報を得るようにしている。	入居者ごとに担当を決めて個別に対応し、要望を聞き取るようにしている。発語のない方でもケアの様子や表情によって感情の機微を読み取ったり、スタッフが横に座って話を聞く時間を作り対応をしている。月1回のお便りで本人の要望などは家族に報告している。アセスメントは一部センター方式を利用し、入居者、家族、担当スタッフと一緒に要望をくみ取り、日々のケアからも意向を引き出せるように改善を心がけている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで使っていた物を使用してもらっている。食事の準備等をしてもらっている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の1日の過ごし方を大事にしている。ムリにならないようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月 ケアカンファを行って、スタッフが本人、家族から意見要望を聴き全職員でアイデアや意見を交換し現状に即した介護計画を作成している。	6ヶ月に1回の定期的な見直しだけでなく、毎月のカンファレンスの結果によっては随時ケアの見直しを行っている。マンツーマンの担当制で本人の要望を細かく読み取り、朝夕の申し送り、日誌、実施記録などで全体へのプランの共有、確認が出来るようになってきている。全職員が、全入居者の状況がわかるように、全体会議は丁寧に時間をかけて行い、高い意識でケアに臨んでいる。	職員の意識は非常に高いが、今後はカンファレンスにOT、PT、栄養士など介護職以外の専門家の意見も取り入れ、違う目線でのカンファレンスにしていきたい。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	チェック表ケース記録等を活用し検討見直しをしている。個別ファイルに保管されている。		

04自己・外部評価表(GHたかみ梨)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の面会時に意見や要望などを聴き、それを支援やサービスに取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩時、地域の方への挨拶春祭りでは地域の方が参加されボランティアの協力が得られる。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本的に家族が決定し病状に応じた適切な受診をうけるようにしている。受診希望者には柔軟に適切に対応している。山崎医院と医療連携を結んでいる為24時間365日対応で支援中である。	本人が希望するかかりつけ医がいる場合は継続して診療を受けられる。家族が通院介助をする際もその都度連絡をとって状況の確認を行い、必要の際はスタッフの同行や、通院介助も行っている。提携医は2週間に1回、看護師は週に1回訪問し健康管理に取り組んでいる。提携医は協力的で緊急時にも気軽に相談、対応してくれる関係にある。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護に入る看護師に伝える。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に病院へ情報提供を行っている。本人家族医療関係者との連絡情報交換し、早期退院に取り組んでいる。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携をとったことにより、重度化終末期のあり方などを話し合いをしながら、支援していきたいと思っている。	入居時に本人、家族の意思を確認し、終末期の希望があれば、事業所としてどこまで出来るかを十分に伝えた上で、方針に同意を得るようにしている。現在は対象となるケースはないが、提携医の協力の下、勉強会も年に1、2回行っており、家族や病院との連携をとって対応していく姿勢である。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回講習を受けている。		

04自己・外部評価表(GHたかみ梨)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防立会いで訓練を行っている。非常食・飲料水・備品を準備している。	年2回定期的に、夜間想定、消火訓練を含めた総合訓練を行っている。救命講習にも参加しており、災害時に備えた食料品などの備蓄物も確保している。	事業所内での災害対策はなされているが、今後は地域の防災訓練への参加や、避難訓練への参加を呼びかけを行い、地域との協力体制を強めていくことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員でミーティング時に話し合いプライバシーの尊厳について理解しているが、声かけ時などの意識まではいたっていない。	全体会議時に教育、情報共有を行い、羞恥心に配慮したケアの実践が行われている。管理者による指導もその都度行っており、親しみをおぼえてもらうケアと馴れ馴れしくなることが一緒にないように気をつけている。事業所内の写真の掲示にも許可をもらった上で行うように配慮されている。	言葉かけや対応には気をつけられているが、全職員に対しての徹底と実践を深めていくために、接遇やマナー、モラルに関しての研修などの開催を行っていくことが今後期待される。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人ひとりのコミュニケーションを取りながら支援する。日々の係わり合いの中で利用者へ声かけすることで、意向や重いなどの把握に努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランを作成し、支援している。毎日記録する。天気気候にあわせて、毎日散歩や外気浴を行い、外出やドライブや花見などを月1回は行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日中と夜のメリハリをつけ衣類の調整。女性と男性の身だしなみに気配りしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々のメニューを表示して出来る場所は手伝っていたり、時々外食し、楽しんでいただいている。	元気な方は積極的に働き、下ごしらえや準備などを手伝われている。メニュー委員会を設けており、担当者が、入居者、家族の要望などを聞き取りながらバリエーションに富んだメニューの作成に努めている。裏の畑で採れた野菜や旬の物を提供し、頂き物があった際は柔軟にメニューの差し替えも行っている。和気藹々とした雰囲気職員、入居者も含めた皆で楽しく食事がなされている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日摂取量・水分量を記録する。メニュー委員が1週間分の献立表を作成し施設内に毎日献立を表示する。		

04自己・外部評価表(GHたかみ梨)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人に応じた口腔ケアをしている。朝夕はスタッフが立ち会ってチェックを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンをチェック表にて把握し、時間や動作で察知して排泄の自立にむけてトイレ誘導などを行っている。	個別の排泄チェック表で全職員が入居者の排泄リズムを把握しており、申し送りでも情報の共有がなされている。過剰な介助にならないように自立心を活かし、失敗があった際も羞恥心に配慮したケアを心がけている。排泄委員による委員会でのケアの改善も行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給消火によい食物 かむことへの声かけを行う。利用者によっては毎日牛乳を飲み便秘解消に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を毎日してもらう為、体の変化に気をつけている。	本人の希望にあわせながら、毎日の入浴にも対応している。自分で出来る方には、見守りに対応することもある。本人の気持ちを大事に、羞恥心にも配慮し、同性の介助によるケアも行っている。循環型の浴槽で清潔なお湯につかることができ、入浴剤などで入浴を楽しんでもらっている。順番も公平になるように日替わりで交代しており、拒否のある際も無理強いせず本人の意思を尊重している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度調節		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの名前をよび、服薬していただき、入れ歯などに残っていないか確認を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に1～2回の割合でドライブや祭りなどの見物に出かけている。		

04自己・外部評価表(GHたかみ梨)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自由に散歩や買物度伊良部外食等、希望にそって支援している。	近隣への散歩は、本人の希望により自由になされており、買物と一緒にいられる方もいる。月1, 2回の外出行事では季節ごとの花見に行ったり、久留米、太宰府、阿蘇、久住など折々の観光地に行くこともある。家族が外食に連れて行くこともあり、車いすの方も、全員が同じように外出を楽しむように支援がされている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお金を預かり、本人の希望があれば、使えるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも本人が希望される時は電話をかけるように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示板などに季節の花など折り紙で利用者と共に作成して季節感を表現している。	南向きの窓が広く確保され、開放的な明るいリビングが憩いの空間となっている。太陽光発電と床下暖房によって寒い季節でも過ごしやすい室温が保たれている。季節の飾りや金魚の飼われた水槽などで落ち着いた雰囲気があり、入居者が家庭的な団らんを楽しんでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食道(ホール)からは死角になるが、玄関入り口よりホールに入った付近にソファを2台設置している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた筆筒やベッドなどをつかい慣れ親しんだもどを持ってきてもらい、居心地よくしている。	ベッドは希望があれば事業所で用意し、手すりによって転倒の危険がないように配慮されている。ユニットごとに梨や柿を模した可愛い表札が掛けられ、暖かい雰囲気を醸している。どの居室からも窓からの眺望はよく、季節の移り変わりや自然を感じる事が出来る。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の手すりトイレ居住にも手すりを使用して安全に心がけている。		